

令和3年度第1回育親中学校ブロック協議会 議事録要旨

■日時

令和3年12月20日（月）午後7：30～午後9：00

■会場

育親中学校 1階 視聴覚室

■議事

- 1 開会
- 2 育親中学校ブロックにおける学校のあり方について
- 3 意見交換
- 4 閉会

■意見交換等発言内容

座長 (教育総務課長)	次第の2「育親中学校ブロックにおける学校のあり方について」事務局から説明いただきたい。 <事務局説明>
座長	事務局から「育親中学校ブロックにおける学校のあり方について」説明があった。何か質問・意見があればお願いしたい。
委員	先月、西部4町の自治会長連名で市長と教育長に要望書を提出した。趣旨としては、教育委員会から地元に現状と課題の説明はしていただいたが、今後どう進めるかが議論できておらず、これまでの説明だけでは地元の不安が増幅していき、事実と違った情報が流れることで今後の教育環境の整備を進めるのに支障が出てしまうのではないかという思いから、今後、会議の中で建設的な議論ができるために、教育委員会に具体策を提示してほしいということをお願いした。地元としては、保護者も含めてこのままではよくないとわかってはいるが、どうすればいいのかは素人なので分からない。中心は子どもであり、子どもたちがどのような環境で学ぶのがいいのか、他の亀岡市立の学校に比べて劣ってしまう部分を解決する案を地元に提示していかないといけない。それを考えるのが大人の責任であるので、今後のことを議論できるようにしてほしい。
委員	自治会としては教育環境を良くするために議論していかなければならないと思

	い要望書を提出した。今までの説明会では規模の適正化、いわゆる人数が少ないから児童生徒数を増やそうという形で説明を受けたが、地元としては少子高齢化でこの先どうしたらいいかではなくて、前向きに新しい学校をつくって住民と一緒に素晴らしい教育環境を考えていけるようにしてほしいと要望した。市長と面談した時も数合わせではなく、西部地域にしかない新しい学校、新しい教育環境をどのように構築していくかという視点で考えてほしいとあった。例として木造の校舎にするなど西部地域としてふさわしい教育環境を目指す前向きな議論ができるような進め方をしてほしいと思う。
座長	青野小学校ではP T A内でアンケートを取っていただいたとのことだが、それも踏まえ何かないか。
委員	P T A本部を中心に規模適正化についてアンケートを取った。今回のアンケートでは未就学児の保護者も対象としていた。統合またはどちらでもよいに8割～9割以上が賛成していた。反対意見は、大規模校で過ごしてきた保護者の意見にはなるかもしれないが、小規模校でのびのびと成長してほしいと意見があった。ただ、今後の児童数をみると西部地域の3小学校の統合であればそれほど多くならないと思うともあった。 個人的には3校を統合しても資料にあるとおり令和7年度以降の人数は少ないままなのでその先をどうするのかという問題もあると思う。
委員	改めてになってしまうが小中一貫校と義務教育学校の違いはなにか。
事務局	資料にもあるとおり、小中一貫校は小学校と中学校がそれぞれ存在しており、小学校で6年間、中学校で3年間学び、小中どちらにも学校長がいて、学校に応じた教員が配置され授業を行っている。現在出来ていないというわけではないが、小中一貫校というのは9年間を見据えた教育目標を設定して、9年間を通して系統的・体系的な教育を実施するものとなっている。それに対して義務教育学校は、小学校と中学校を一つの学校にして1年生から9年生の9年間を学んでいくものである。学校が一つなので学校長は一人、教員は基本的に小中両方の免許が必要になるが、当面の間は片方の免許のみで免許に応じた指導が可能となっている。教育課程については、1年生で入学したら9年間すべてが終わったら卒業という形になる、その部分についても大きな違いとなる。さらに、教員が一つの学校に在籍しているため、9年間の継続した指導ができることも特徴と言える。
委員	保護者や地域の意見はよく聞くが、通学している子どもの意見を聞く機会はどこかで持てないのか。
事務局	今後子どもたちの意見を聞くということは考えないといけないが、育親中学校

	ブロックについては、特に小学校で野外学習や修学旅行を既に合同で行っている。これまでの活動に参加している児童からは、3校で合同で行くことで人数が増えてとても楽しかった、活動後から帰ってきた後にできれば一緒に授業を受けたいなどの声を聞いている。
委員	保護者全体からはどの地域に学校が統合されるかによって、通学方法が今と変わることや放課後児童会の迎えの時間などの問題があるので統合後も小学校で放課後児童会は実施してくれるのか、迎えの時間を遅らせて対応してくれるのかななどを心配されている。
委員	昨年の説明会等での意見では、小学校の統合に関しては前向きである。ただし、小学校と中学校を一つにしてもこのままでは人数は減り続けて部活動の選択肢も減るので、蔦田野小学校や千代川小学校の一部も統合しないと増えることがない。 小学校に関しては、統合後の場所などの具体的な案を示してほしいという意見を聞いている。
委員	これから教育委員会でいろいろと示してくれると思うが、基本方針では西部地域の3小学校は統合する必要があると書いてあるが、統合ではなくて新しい学校、新しい教育内容、将来を見据えて新しい学校を卒業したら子どもたちはこんなにも立派になったと言えるような学校をつくってほしい。現に小学校を卒業した後に育親中学校ではなくて園部高校附属中学校に進学している子どもや、京都市内の私学に進学する子どももいる。その理由は、そこに魅力があるからであり、そのような学校を西部地域にもできないのかと思う。そうすれば、西部4町だけではなく、他の校区からも子どもが来てくれるかもしれない。西部地域にある地球環境こども村と連携して特色ある環境学習をすることや、クライミング施設やゴルフ場などの資源を活用した部活動を作るなど、西部地域ならではの学校づくりは可能なはずである。義務教育学校にするにしても人数が少ないなら6年生から部活ができるようにするなど思い切ったことができないのかと思う。文部科学省の学習指導要領の関係でどこまでできるか分からないが、魅力ある学校、その学校に喜びを持って通える夢のある学校を提案してほしい。
委員	先ほどの意見のような学校が実現するなら保護者としても望ましいが、現実的に難しい部分もあると思う。3校が一つになるのには賛成なので先ほどの意見も踏まえつつ現実的に考えてほしい。
委員	現状、畑野小学校には複式学級があるが、本来の複式学級の授業ではなく工夫して授業をしている。本来は1つの教室に異なる2学年がいて、それを一人の教員が指導するというものであり、授業の中身が違うのでそれぞれの学年に関

	わる時間が45分授業なら半分の22分程度しかなく、授業を受けていない片方の学年は自習をすることになる。畑野小学校では、児童の学力のことを考えて、国語と算数については各担任が全て責任を持って教えている。担任が3年生に国語を教えている時間は2年生は1年生と一緒に体育や図工をしている。そのやり方で何とかギリギリな状況である。全校生徒約40名、多い学年で9名、少ない学年で4名のような状況で主体的対話的な学びをどこまでできるのか、教師も苦労しながら教育活動を行っている。
委員	自分自身は本梅小学校が亀岡市のなかで1番だと毎日思っている。西部地域では利点をしっかり活用して教育活動を行っている。ただし、どうしても子どものなかでも好きなことや得意なもの、不得意なものがバラバラであり、一人で読書をしたりボールを蹴っていたりするという場面が出てくる。仲間がいたら一人にならずにいろんな世界が広がるし、もう少し人数がいれば工夫した遊びが考えられるのと思う。5年生は野外学習から帰ってきたあとに、次の日からバラバラで過ごすことになる、このまま一緒に勉強できないのかなどと、集団でいろんな楽しいことに会い最後の別れる時の辛さを語っている子もいた。修学旅行でも連携した事前学習が不十分ではあったものの、1泊2日の中でもそれぞれが友達を作って、それぞれが良い関係を築いている。そのあたりの西部地域の利点を活用しながら課題を解決していけたらと思う。
委員	少人数にはメリットもデメリットもあるが、子どもは様々な面で頑張っている。一方で、保護者のなかからは、子どもの数が減っており、これからも減っていくと考えた時、高学年がいなくなり低学年だけの登下校になったら心配という声を聞く。そういった意味で子どもたちの教育環境の整備はしっかりと考えていく必要があると思う。子どもたちはなによりも住んでいる地域が好きで、地域に開かれ、コミュニティを大事にした西部地域ならではの学校づくりができるように保護者、学校、地域と交えてできたらいいと考えている。
委員	3小学校と育親中学校が一緒になって新しい学校をつくるのは賛成である。小学校と一緒にすることで、中学校の人数は変わらないが、全校生徒の人数は3倍になる。小学校1年生から中学校3年生までが同じ環境で目に見える形で過ごして学び合えるのは大きなメリットになると思うし、そのような新しい学校を創るという観点で議論が進めばいいと考えている。
委員	東本梅町は独特で、昔の東本梅小学校に通っていた人が学校をどのように思っているかを聞いたら、学校に対する郷愁が非常に強い。特に畑野小学校も本梅小学校も歴史的に長いので、目の前を歩く子どもがいなくなることは精神的な地域の寂しさは無視できないものだと感じた。今回の話は新しい学校をつくるのと同時に学校がなくなるという同時進行のものであり、新しい学校をつくって子どもに希望を与えるのも大事だが注意すべきこともあり、できれば微妙な

	住民感情があることも認識し、そこに配慮しながら取組を進めて行く必要があると思う。廃校、統合のような言い回しをすると進まない。自治会としては魅力ある学校が子どもたちに必要であるというスタンスで協力していくが、目に見えないデリケートな部分もあることも理解してほしい。
委員	統合ではなく、新しい教育環境の構築を進めてほしい。特にカリキュラムが自由な地域密着型の義務教育学校が理想として挙げられる。今年、自治会でも本梅小学校と一緒に防災関係の取組を行ったり、希少動物の引っ越しに参加したりした。このようなことをカリキュラムに組んで特色あることを学んで、活気ある取組ができたらと思う。
委員	以前から人数に関する問題が出てくることは予想していた。まずは子どもが主体であるため、子どもがどう考えているかが重要。地域の声もあると思うが、子どもの声を聞いて子どものために地域も一緒になって取組を進めてほしいと思う。すでに3小学校で野外学習に行って素晴らしい経験をしており、それは必ず今後生きてくる。そのようなことを続けていくにはある程度の人数が必要である。子どもがどのような成長をしていくのが一番いいのかを地域も一緒に考えてほしい。
教育長	それぞれの想いを一つにして理想の学校をつくっていきたいと思っている。他のブロックでは厳しい意見もいただいたが、最終的には子どもたちの未来を考えて取組を進めなければならないし、様々な意見が出てくると思う。今回は反対の意見は出なかったが、今後は地元から厳しい意見が出てくるかもしれない。しかしながら、責任を持って取組を進めたいと考えているし、全員で出来るだけ早く進めたいと思うので御協力願いたい。
座長	今後の進め方として、新しい学校をつくるということを念頭に置きながら、具体的な案を提示し、次回以降進めたいと思う。本日のところは、会議を閉じさせていただきます。